



# 伊丹市保護司会だより

## 第66号 もくじ

- P1…ともに支え合う地域を目指して  
地域のチカラ「障がい者と共に生きるまちづくり」
- P2…魅力を感じる更生保護ボランティア活動
- P3…新たな被害者も加害者も生まない明るい地域社会を
- P4～5…第75回社会を明るくする運動
- P6…保護司のつづやき・校区のイチ推し!
- P7…会員動静・総会・研修
- P8…伊丹の幼児教育紹介

## ともに支え合う地域を目指して



伊丹市長

中田 慎也

伊丹市保護司会の皆様におかれましては、日頃より犯罪や非行の防止、罪を犯した人

の更生を支援する保護司としての活動のほか、「社会を明るくする運動」をはじめとした更生保護の啓発活動等、地域の安心・安全のために多大なる御尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

私は、先の伊丹市長選挙において市民の皆様の信託を受け、第25代伊丹市長に就任いたしました。政策の柱のひとつに「安全第一のまち」を掲げておりますが、皆様の活動は地域において大きな役割を果たしていただいております、市政運営に取り組むにあたり、大変心強く感じているところです。

しかしながら、近年、特殊詐欺の増加や大麻等の違法薬物の乱用、SNSで高報酬をうたい、犯罪の実行者を募集する「闇バイト」の問題など高齢者や青少年をとりまく犯罪が大きな問題となっております。

これらの犯罪や非行を防ぐためには、過ちから更生する人を受け入れ、支え合う社会をつくることや、犯罪や非行を防止する家庭や地域づくりが重要ですが、相談する相手がいない、また支援が行き届かない等、対象者が孤立しているケースも少なくありません。

本市では、対象者や地域の抱える課題が複雑・複合化する中で、従来の高齢・障害・生活困窮・子どもといった分野ごとの支援体制では支援の手が行き届かない制度の狭間のニーズに対応するため、「重層的支援体制整備事業」を実施しております。誰もがつながり、支え合える地域づくりのため、保護司の対象者に寄り添った献身的な支援・地域に根ざした活動をはじめ、市民の方々と連携しながら、継続的に支援を行う体制づくりを進めてまいります。

今後も皆様をはじめ、地域の防犯や安全を担っていただいている方々の御支援・御協力を賜りながら、安全で暮らしやすいまち、誇りあるまちを次の世代につないでいくために、市政運営に全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

## 地 域 の チ カ ラ No.4

### 障がい者と共に生きるまちづくり

場所：伊丹市障害者福祉センター（アイ愛センター）2階

伊丹心身障害対策市民懇談会は昭和43年9月に伊丹市医師会の提案により設立し、当初からの目的である「障がい者と共に生きるまちづくり」を目指して、障がい者の皆様が事業に参加して本当に良かったと思っただけのよう、その時代にあった事業の開催に心掛けております。



活動には各種団体、個人ボランティアの皆様の御協力により「二十歳を祝うつどい」、「手をつなぐ夏の夕べ」、「ふれあいバスツアー」、「阪神タイガース選手とともに」等を開催しております。それらの財源を確保するために、今年も10月5日に、手をつなぐ愛のバザーを開催します。

## 魅力を感じる更生保護ボランティア活動 ～ つなぐ そして 共生へ ～



伊丹市保護司会

会長 石堂 行文

保護司経験の豊富な先輩諸氏がおられる中、4月より伊丹市保護司会会長を浅才非才ではございますが拝命いたしました。皆様の御鞭撻御協力により責務を全うしたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

保護司制度は明治時代の民間の保護活動を起源とした日本発祥の制度で、昭和24年犯罪者予防更正法の制定により現在の更生保護制度が確立されております。令和3(2021)年には、第1回世界保護司会議が京都で開催され日本の保護司制度が再犯防止に効果的であることが世界各国から評価されました。令和6(2024)年には、第2回世界保護司会議がオランダのハーグで開催され「4月17日は国際更生保護ボランティアの日」に設定すると宣言され、更生保護に関わる地域ボランティア「地域のチカラ」が世界に広がるきっかけとなりました。この宣言を祝い、伊丹市・伊丹市保護司会は、第75回“社会を明るくする運動”7月の強化月間中、フランドルの鐘（カリヨン）をイエローライトアップして更生保護ボランティアが市内に広がることを願う取り組みを進めました。

急速に変化する現代社会の中には、孤独、孤立や生きづらさを抱えながら日々の生活を送られている人もおられます。伊丹市保護司会は、過去の過ちから立ち直ろうとする人を再び地域に受け入れる環境を整えることで、多様な背景を持つ人と人が緩やかに繋がり、共に支え合う地域社会の実現を願って更生保護ボランティア活動を進めています。

す。令和7年度のテーマに「繋がり」と情報共有」を会員相互の共通課題といたしました。保護司同士が「悩み」、「悲しみ」、「満足感」、「達成感」や地域の「保護司適任者」発掘等の事柄についてコミュニケーションを交わし、更生保護ボランティア活動の魅力を共有しております。さらに、子ども達の健全育成のため、更生保護の関係団体と繋がり方を深める方策を検討しております。

伊丹市保護司会の重要な課題として、保護司定数を満たしていないことがあります。この状況の背景には、人口減少による人材不足、社会変化による定年延長、保護司委嘱年齢の高齢化等の社会的要因が考えられます。適正な定数を確保することは、更生保護ボランティア活動が充実し、社会貢献の実につながることは確かです。皆様の御推薦により有為な人材発掘に御協力を賜りますようお願いいたします。



ＪＲ伊丹駅西側のカリヨン塔

“社会を明るくする運動”のシンボルカラー「黄色」にライトアップ

## 新たな被害者も加害者も 生まない明るい地域社会を



神戸保護観察所

所長 手塚 徹

この4月から皆様と御一緒しております。伊丹市保護司会をはじめ関係の皆様におかれましては、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを親身になって支援するとともに、地域社会の理解と協力を得て社会を明るくする「地域とともに歩み、地域に貢献する更生保護」の実践に日々、力を注いでいただいておりますことに敬意を表します。

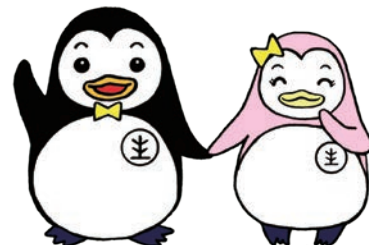
更生保護は、長きにわたり、皆様の「人は変わる」という信念や地域愛、人間愛に基づく活動によって支えられ、関連のある様々な分野の方々と手を携えながら発展してきました。地域社会に根差した息の長い活動に取り組んできた更生保護の重要性はますます増しており、4月17日は「国際更生保護ボランティアの日」とされるなど、我が国の保護司制度や更生保護関係者の活動は国際的にも高く評価されています。

伊丹市保護司会では、“社会を明るくする運動”、犯罪の予防に寄与する伊丹市の施策への協力ほか様々な地域活動を計画され、国の承認を得て毎年度実施されております。伊丹市におかれましては、いたみいききプラザ（地域福祉総合センター）を保護司の活動拠点である伊丹市更生保護サポートセンターとして提供いただくほか、更生保護ボランティア団体である伊丹市保護司会、伊丹地区更生保護女性会及び伊丹市協力雇用主会「つつじ会」の活動等、多方面から力強く支援していただいておりますことに深く感謝いたします。いずれ地域福祉計画改定の折には再犯防止推進計画が包

含されますことを御期待申し上げる次第です。今後とも国・地方公共団体・民間で連携して、たままとホゴちゃんほか皆で相互協力の良い関係を発展させてまいりましょう。

急速に変化する社会の中で孤独・孤立や生きづらさを抱えながらも、過去の過ちから立ち直ろうとする人を再び地域に受け入れ、支えていく。このことが、新たな犯罪被害者も加害者も生まない、安全で安心して暮らすことのできる明るい地域社会を築くことにつながります。

保護観察所としても、持続可能な保護司制度の確立をはじめ諸課題に、時代の変化やニーズにしっかりと対応できる更生保護の在り方を見据えつつ、先人から脈々と受け継がれてきた更生保護の精神と営みを未来につなぎながら、皆様方とともに、着実に取り組んでまいり所存です。今後とも地域の皆様から一層のお力添えを切にお願い申し上げます。

伊丹市マスコット  
たままる更生ペンギンの  
ホゴちゃんとサラちゃん

## のぼり旗・横断幕設置

市内40か所に、保護司会会員、更生保護女性会会員、市職員の御協力で設置しました。



のぼり旗の準備



JR伊丹駅歩道橋の横断幕



有岡小学校

## ラッピングバス運行

伊丹市営バスの御協力を得て、啓発活動を行いました。強調月間中はバス降車口横に啓発イラストや運動の詳細を記載したラッピングバス6台と車内啓発ポスターを掲示したバス40台が、市内主要路線を走りました。



ラッピングバス  
車内ポスター

## 街頭啓発(7/13)

JR伊丹駅前と阪急伊丹駅前、ジョイフルコンサートチラシとポケットティッシュを配布しました。



## ジョイフルコンサート(7/13:伊丹アイフォニックホール)

“社会を明るくする運動”伊丹市推進委員会の名誉委員長である中田伊丹市長からの挨拶、石堂委員長からの挨拶がありました。続いて、啓発イラスト受賞者の表彰式が行われました。後半には、のまようちえんハッピーコースによる元気いっぱいの歌のパフォーマンスと、兵庫県警察音楽隊による迫力ある演奏が披露されました。ポップス曲目では観客も手拍子で参加して、会場が一体となって楽しい時間を過ごしました。また、ロビーでは“社会を明るくする運動”の募金活動も行われました。



市長挨拶



表彰式



のまようちえんハッピーコース



関係団体との連携



受賞者の皆さん



兵庫県警察音楽隊

## こちらもご覧ください

法務省公式  
YouTubeチャンネル



“社会を明るくする運動”  
ウェブサイト



# 第75回 “社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動です。伊丹市においても、7月を強調月間として様々な活動が展開されました。

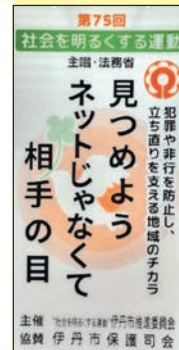
## 標語パネルの協賛募集と掲示

市内のたくさんの団体等から協賛をいただきました。

- ☆自治会 …… 55枚
- ☆企業・商店等 …… 40枚
- ☆個人 …… 1枚
- ☆小中特別支援学校 …… 26枚
- ☆各種団体 …… 76枚

(保護司会・更生保護女性会・社明構成団体等)

どうもありがとうございました。



## 啓発イラスト募集と展示

啓発イラストの募集に市内の小中学校から総数67作品の応募があり右記の皆さんが優秀賞に選ばれました。

7/4～8/4まで伊丹市総合教育センター1階ホールで、「啓発イラスト展示会」を開催しました。



啓発イラスト展示会

## 小学生の声を聞く会(7/15:荻野小学校)

保護司会・更生保護女性会会員等15名が、6年生の3クラスに分かれて道徳の授業を参観しました。テーマ～公正な態度で～「森川君のうわさ」の教材を基に、“公正・公平なクラスにするために大切なことは何?”について、授業が展開されました。教師の問いかけに、様々な視点で考えを深め、自分なりの言葉でしっかりと発表している児童の姿を頼もしく感じました。



## 中学生の声を聞く会(7/22:天王寺川中学校)

テーマ「生活習慣とコミュニケーションについて」に基づき、生徒会所属の生徒、教諭、保護司、更生保護女性会会員等が集まって開催されました。

生徒から中学生の実情についてパワーポイントで説明を受けたあと、参加者全員が5グループに分かれてディスカッションを行いました。中学生は忙しくて睡眠時間が少ないことや、SNSが生活の一部になっていること等を踏まえて、より良いコミュニケーションを構築していく方法を皆で考えることができました。



## 公開ケース研究会(7/16:総合教育センター)

青少年の犯罪割合が増えている昨今、伊丹市も例外ではありません。そこで今回は「SNSを利用した詐欺を行い保護観察になった18歳の少年Mの事例」をもとに意見交流会が行われました。

資料『少年Mの事例から』が読みあげられた後、東中、北中、天王寺川中、荒牧中の四中学校グループに分かれ、SNSの問題や少年を取り巻く環境、資質上の問題、少年やその家族をどう支援できるのか、更生のために学校や地域はどう連携できるのかなどをテーマに、それぞれ活発な意見交換がもたれました。

最後の全体発表においては、家族のコミュニケーション不足、幼少期からの関わり方、居場所作りの大切さ、教師の声掛けや地域の見守る力の必要性などの課題が浮き彫りになり、今後に役立つ視点を持つことができました。

参加者はPTA会員、生徒指導担当教諭、少年補導委員、更生保護女性会会員、保護司など合計48名でした。



全体会



意見交流会

## 最優秀賞



【中学生の部】三河 美結さん



【小学生の部】岡田 柚羽さん

## 啓発イラストの優秀賞受賞者

- |      |                     |
|------|---------------------|
| 最優秀賞 | 三河 美結さん (天王寺川中学校1年) |
| 最優秀賞 | 岡田 柚羽さん (緑丘小学校6年)   |
| 優秀賞  | 柳瀬 理奈さん (西中学校3年)    |
| 優秀賞  | 上田 佳歩さん (西中学校3年)    |
| 優秀賞  | 若生 杏さん (西中学校3年)     |
| 優秀賞  | 桑田 結衣さん (花里小学校4年)   |
| 優秀賞  | 中野 咲恵さん (花里小学校1年)   |



## 保護司のつぶやき

### 一燈照隅

天王寺川中グループ 田中 いづみ

保護司を拝命し、担当が決まり先輩保護司のご指導のもと面接が始まりました。ほどなく単独担当になり、暗中模索な中で保護観察官から次の言葉が届きました。対象者は「保護司との面接で心が和みました。保護司と出会わなければ世間の荒波に溺れ自分を見失っていた。もっと早く再犯していたことだろう」と話したとのことでした。短時間で始めた面接でしたが、互いに緊張がほぐれ、次第に打ち解けて取り巻く状況を聴かせるようになり、一時間を過ぎる面接も増えました。けれども私は保護司として年数も経験も浅く傾聴しかできていなかったため、手応えを感じることも少なく内心は心苦しく思っていました。そのような中で保護観察官からの言葉は、対象者の救いになっていたことを知り、私にとっても彼らから導かれているなど思いました。

微力ですが、これまでの経験を糧に今後も対象者の一燈照隅を支えてまいりたいと思います。

### 保護司として今思うこと

天王寺川中グループ 松原 昌昭

保護司の任命を受けて5年目になります。地域の保護司から誘いを受け、罪を犯した方も人、「人として」対応が大事と言われ、私が障害者福祉施設に入社した時も「人として」と言われたことを思い出し、共通するものを感じ保護司を受けました。現在は、来訪時に父親から対象者の幼少期に将棋をしていたと聞き、私も将棋の経験があるので、将棋をしてからの面接となりました。それまでは聞かれたら答えるのみだったが、徐々に積極的に話をしたり、目を見て話ができるようになったことがとても嬉しく、これからも続けたいと思っています。

行く雲も流れる水もとどまらず

我を忘れて今を行く我

1年前から保護観察主任官と相談し、地域で福祉関係機関が集まり3か月に1回、対象者主体のケースカンファレンスを実施しています。地域に相談相手や頼れる人がいることで、再犯につながらないようにすることは大切な役割の一つだと思います。

## 松崎中学校



## 校区のイチ推し！

松崎中学校グループ 小松 しのぶ

令和7年6月8日(日)伊丹市立松崎中学校において、一般社団法人ウタのタネ主催による能登半島地震支援チャリティーコンサート「Sing with NOTO～今わたしにできること～」が開催されました。

このコンサートの主催者でもある代表の寺尾仁志氏がリーダーを務める“human note”(シンガーグループ)を筆頭に、応援団“漢組”、“Joyfullチャンゴ”(知的・発達障害児者のグループ)、“伊丹ダブルダッチスクール”、“伊丹市立松崎中学校吹奏楽部”、“ウェルネスダンシング”(車いすダンス)がそれぞれの持ち味を活かした多種多様な演技を惜しみなく披露しました。

御多忙にも関わらず、中田伊丹市長をはじめ、行政機関や地域の方々を含む400名以上の来場者を迎え、たくさんの方々の御協力で募金や寄付金を集めることができました。また、松崎中学校や昆陽里小学校地区自治協議会、SC21こやの里の御協力をいただき、地域を巻き込んだ大盛況のイベントとなりました。

私も、このイベントの企画段階より携わり、人と人との温かさや熱意など普段では味わえないような体験をさせて

いただき感謝いたします。このようなイベントを通して培った“縁”を大切に、次の世代へと紡いでいきたいと思っています。



## ご苦労様でした

◆満年齢退職保護司

藤田 静夫 様

## ※※ 新 会 員 紹 介 ※※

ちかひろ  
大 路 周 宏

東中グループ 就労支援部会



この度、先輩保護司からお誘いをいただきまして仲間に加えていただくことになりました。父親から引き継いだ「大路旗幕」で仕事をしております。学生時代は野球とラグビー、30歳代は「伊丹青年会議所」、40歳代は「小・中・高校PTA」、そして50歳代の今は「地域の活動」に関わる時間が増えました。1対1で寄り添って進めて行く活動には不安を感じておりますが、対象者の方と共に人生勉強をしたいと思っております。

ともなり  
乾 智 也

西中グループ 青少年・研修部会



この度、ご縁をいただき保護司をお引き受けすることとなりました。私は浄土真宗本願寺派の住職をさせていただいております。困っている人たちの声に耳を傾け、決して見捨てることなく寄り添う心を大切にして、社会のお役に立てるように努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 令和7年度伊丹市保護司会定期総会開催

4月23日(水)いたみいききプラザにおいて、令和7年度定期総会が開催されました。副市長をはじめ、多くの来賓をお迎えし、御挨拶をいただきました。開会后、恒例となっている『保護司信条』の唱和を行いました。引き続き議事へと移り、議案は滞りなく承認され、新体制のもと新たな一歩を踏み出しました。

### 【新役員の紹介(任期2年間)】

会 長：石堂 行文

副会長：岡田 英紀 松田 富美雄

会 計：石森 明美

監 事：山中 誠次 松井 万里子



松田副会長 石堂会長 岡田副会長



## 令和7年度伊丹市協力雇用主会「つつじ会」定期総会開催

6月2日(月)いたみいききプラザにおいて、令和7年度「つつじ会」定期総会が開催されました。会長挨拶、来賓祝辞の後、議案審議が行われ、滞りなく承認されました。続いて、企業組合伊丹市雇用福祉事業団代表理事：高木哲次氏による「生活困窮からなりわい支援～公的就労と公的居住からの自立～」の記念講演がありました。困窮者自立支援の模範的な取り組み「伊丹モデル」として実績を上げている様子が紹介されました。



## 令和7年度第1回ミニ研修会開催

青少年・研修部会 松村 恭子

6月11日(水)総合教育センターにおいて、青少年・研修部会主催のミニ研修会「面接について」を開催しました。面接は保護司にとって、保護観察の最も重要な手段となっています。参加者から面接時の注意点や質問点などを出してもらい、話し合いや情報交換を行いました。保護司活動の実績を通した具体的な問いかけであり、一人ひとりの対象者にあった関わりの参考になりました。

### 質問具体例

- ・ 約束した時間を守れない対象者をどう理解し、どう対応するか
- ・ 口数の少ない対象者との面接の進め方
- ・ 面接の回ごとの話題継続方法 など



# 伊丹の幼児教育紹介

## 心身ともに健やかで いきいきと生活する子どもの育成を目指して

伊丹市立神津こども園 園長 川阪 由紀

### 1 神津こども園の沿革と教育保育理念

本園は平成25年4月に旧神津幼稚園と旧神津保育所が統合し、新たな就学前施設「幼保連携型認定こども園」として開園しました。乳幼児期は人格形成の基礎を培う重要な時期であることに鑑み、家庭や地域、様々な関係機関との連携を図りながら、未来を担う子どもが心豊かに「たくましく生きる力」「学びに向かう力」を身に付けることができる、きめ細やかな養護と質の高い教育・保育を行うことを目的としています。現在は160名の子ども達が在籍しており、0～5歳児(就学前)の児童が毎日元気に通っています。

- ① かんせい豊かな子
  - ・感じる心と気づく心
  - ・想像力と創造力
  - ・自分なりに表現することができる力
- ② みらいを担う子
  - ・食べる喜びを感じる心
  - ・あきらめない心
  - ・体を動かすことを楽しむ心
  - ・自ら考え行動する心
- ③ つながり合う子
  - ・自分を愛する心
  - ・人を大切にする心
  - ・互いのよさや違いを認め合う心
  - ・人の役に立つことに喜びを感じる心

### 2 本園の教育保育活動と特色

#### (1) 主体性を育む

(自分で、考えたり選択する経験ができる環境を整えています)

子ども達は日々夢中になって遊ぶ中で「好奇心や探求心」「試行錯誤」「自己を抑制する力」「自己肯定感」等を学びます。これは「非認知能力」といわれる力で、これからの子ども達に身に付けたい必要な「力」です。一人一人の主体的な「意欲」を大切にしたい教育保育を目指しています。



大好きなダンゴムシ探し



屋上園庭

#### (2) 健康な心と体

全身を使って思いきり体を動かす「粗大運動」や、手のひらや指先を動かす「微細運動」

を遊びの中に取り入れ、健やかな体作りを目指しています。屋上園庭は1周が120mあり、リレーが始まるとエンドレスで走り続ける姿があります。疲れてくると芝生でゴロリと転がり、空を見上げると大きな飛行機が見えて、神津ならではの風景が魅力的です。

#### (3) 異年齢との関わり

0～5歳児が自然に関わる姿が多くあります。友達関係が広がる中で年下の子への優しさや、年上の子への憧れの気持ちが日頃の関わりの中で育ちます。子ども達の近くに遊びのお手本があるので、縄跳びの跳び方や体操、玩具の片づけ方などはいつの間にか習得しています。



1歳児と5歳児

#### (4) 食育

季節に応じた栽培活動やクッキングを行っています。収穫した野菜でカレーやさつまいも汁をクッキングしたり、育てたお米で作った新米おにぎりは「最高においしい」です。「いただきます」の言葉に込められた感謝の気持ちを育みます。



夏ピーマンの収穫

#### (5) 地域とのつながり

神津小学校の芝生の運動場で、思いきり走ったり探索を楽しみます。隣接する施設で高齢者の方と一緒に歌ったり手遊びなど、世代間交流を行っています。神津名産のトマトハウスの見学では、真っ赤なトマトに「キラキラ光ってる」と心が動く体験をしています。地域の方との繋がりは心の豊かさを育みます。



小学校運動場でよーいどん



トマトハウス見学



### 編集後記

今号より新シリーズが始まりました。「校区のイチ推し!」では、各校区の特長ある行事や人物などにスポットライトをあてて紹介。「伊丹の幼児教育紹介」では、就学前の子どもたちの施設を掲載していきます。皆様に、親しみのある「保護司会だより」になるような紙面づくりに努めてまいります。

発行：伊丹市保護司会  
編集：保護司会広報部会  
印刷：ケユー出版